

【科研費応募支援ニュースレターNo.28】 発信日 240809
タイトル_令和7年度科研費応募のためのセミナーからの情報

教育職員各位

URA 高木敦子

いつもお世話になり、感謝申し上げます。URAの高木敦子です。
7月16日に、令和7年度科研費の公募が開始されました。産業研究所事務室からのご案内のメール（7月16日 18:12）が先生方に送られています。ここに記載されております、日本学術振興会の募集要項（参考資料1、2）をご覧ください。8月2日には、産業研究所事務室から、びわ色の表紙の『令和7年度 科学研究費助成事業 科研費 公募要領 基盤研究(A・B・C) 挑戦的研究(開拓・萌芽)、若手研究』の冊子が学科事務室を通して、先生方のお手元に届いているかと思えます。

令和6年6月25日開催の『外部講師による「令和7年度科研費 獲得セミナー」』と令和6年7月2日、9日、16日、23日開催と一部オンデマンド配信のみの『令和7年度科研費 応募支援 学内講師による科研費セミナー』の学内限定でのオンデマンド配信も近日中に産業研究所事務室から連絡いたします。授業などで、セミナー参加が無理だった先生方にも是非、ご視聴いただきたく、よろしく願いいたします。

科研費申請真っ盛りの今、羊土社主催の児島将康先生（『科研費 獲得の方法とコツ』の著者）の『科研費獲得の方法とコツ：実例からつかむ、より良い申請書の書き方と応募戦略』を視聴しました。一般に向けた有料セミナーですので、個人的に視聴された先生もおられるかもしれません。セミナーの中で、お伝えしておくと思われまます点を、今回のニュースレターに書かせていただきます。

(1) 児島先生は概要には「背景と「問い」」、「目的」、「展開・応用」の3つを書くこと」と言われていました。2022年に、本学で講演いただいたときには、概要に「問い」を書くことは言われていなかったのですが。

以下はご参考までですが、先日、読んだ本（『研究者のための思考法 10のヒント』島岡 要 著、本学総合図書館にあります）にも、良い問いをだすことの重要性が書かれていました（p.184）。ちょっと長いですが、引用しておきます（***で挟まれた所）。

このような重要かつ一定期間内に解明可能な問題を絞り込むプロセスを、安宅和人氏[脳神経科学者でヤフー社CSO（チームストラテジーオフィサー）]は「イシューを見極める」と表現しています。

まず、イシューを見極めたうえで仮説を立てます。仮説はそれをサポートするようないくつかのデータ（過去の他の研究者の論文や自分の予備データ）と、それらをつなぐロジックにより、ある程度サポートされている必要があります。その意味で仮説は、荒唐無稽な未来予想とは違います。データやロジックである程度サポートされており、いく

つかの欠けているピースを科学的な方法で証明し、補完してやることにより証明できるような、かなり成熟した予想としての研究仮説を立てることが、（仮説検証型研究のプロポーザルを書くには）要求されます。

（２）「科研費応募支援ニュースレターNo.27_令和7年度度費申請における新規変更点」で、書かせていただきましたように、令和7年度科研費申請においてもいくつか変更点があります。その中の1つで、「1 研究目的、研究方法など」で、(1)は(1)本研究の学術的背景や本研究の着想に至った経緯、研究課題の核心をなす学術的「問い」と、変更されています。

児島先生は、「学術的背景」には、申請者以外の研究者による研究、「着想に至った経緯」には申請者のこれまでの研究と、意識して書くとよいと、言い切られています。

（３）文系の申請書で不採択になる場合は、方法に具体性がないことが多いとのこと。アンケート調査やインタビュー調査は、具体的に書くことを強調されていました。

（４）申請書に図をいれるときの要点は、①図とタイトルは一つの画像ファイル(JPEGやPNG)にする、②Wordの「図の書式設定」の「文字列の折り返し」で設定すること

（５）基盤研究(A, B)に応募するときには、応募しようとする審査区分で、次の研究者を調べると良いとのこと。ライバルになる可能性が高いためです。①年度末に課題が終了する研究者はだれか、②前年度と前々年度に終了した課題で今年度採択されていない研究者はだれか。情報収集も大事です。

（６）研究期間について。それぞれの研究計画に基づいて、必要な研究期間を設定することが重要です。ただ、基盤B、基盤C、若手研究それぞれの研究期間別の新規採択件数をみると、なぜかいずれの種目でも研究期間5年の課題が最も採択率が低いとのこと。この理由はわかりませんが、とりあえず、情報として知っておいていただければと思います。

令和6年度のデータ

基盤B：3年29.3%、4年29.5%、5年20.2%

基盤C：3年27.3%、4年31.8%、5年21.0%

若手研究：2年40.9%、3年40.4%、4年42.5%、5年33.8%

（７）あまりメジャーでないキーワードは説明をするべきですが、文の途中に書くと、文の流れを損なうことも多いです。その場合には、概要のはじめと本文のはじめに、キーワードの説明、あるいは定義を2～3行で書いておくことを勧められています。

(8) 「(6)本研究がどのような国際性（将来的に世界の研究をけん引する、協通を通じて世界の研究の発展に貢献する、我が国独自の研究としての高い価値を創出する等）を有するか」は、どのように書くべきか。

①将来的に世界の研究をけん引する

この場合には、その理由を具体的に書くこと

②協通を通じて世界の研究の発展に貢献する

この場合には、

- ・海外の研究者と共同研究を行うこと

- ・海外で研究を行うこと

- ・もし留学生などが研究チームにいれば、その留学生をとおして、その国の発展に貢献できる等

③我が国独自の研究としての高い価値を創出する

この場合には、

- ・本研究は日本が世界をリードしてきた研究分野であり、将来的にも我が国独自の研究として高い価値を創出するものである

- ・これまでの発表論文が海外の研究者に引用されていて、国際的な評価があることを具体的に書く

- ・その研究は、海外においても展開可能である等

を例に挙げられていました。大体5行くらい書いておくによさそうとのことでした。

くれぐれも、何も書くことがないからと言って、無視しておくことは、なされませんように。

(9) 審査委員の人数が、基盤 B では6名が5名に、基盤 C と若手研究では4名が3名に変更されているので、一人の審査委員の比重が大きくなったため、より申請書の出来が採択を左右するとのことでした。

(10) 最後に、児島先生は、ご経験から、「あきらめずに応募していけば、必ず採択される。研究目的と研究方法をしっかりと書けば採択される可能性が高い。」と、述べられていました。

以上です。

本学 web サイト【研究・社会連携】科学研究費助成事業】ページ内に、科研費の応募支援や研究支援に関する情報が掲載されています。

https://www.osaka-sandai.ac.jp/research/grantinaid_scientific_research.html

【ID: kenkyu パスワード: sanken3001】

これからも、科研費申請や研究に関し、情報共有のためメール発信させていただき、なにか少しでも先生方のお役に立てればと願っております。ご不明点、ご意見、ご希望などございましたら、メールで URA 高木敦子 (8atakagi@cnt.osaka-sandai.ac.jp) まで、お伝えください。

失礼いたします。

参考資料 1

『令和 7(2025)年度 科学研究費助成事業 公募要領 基盤研究 (A・B・C)
挑戦的研究 (開拓・萌芽)、若手研究』

https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/02_koubo/kiban.html

参考資料 2

『令和 7(2025)年度 科学研究費助成事業 公募要領 基盤研究 (A・B・C)
挑戦的研究 (開拓・萌芽)、若手研究 (応募書類の様式・記入要領)』

URL は同上